

日本糖尿病学会が主催する学会に行きますと、様々なテーマで数多くの学術講演が行われます。すべての講演は、演者の先生が Power Point で作成したスライドを前方スクリーンに提示し、聴衆に説明する形で進行します。症例発表なら持ち時間 5～7 分程度ですが、特別講演ともなると 30 分～1 時間程度の長丁場になります。特別講演の演者に選ばれるのは、その道で良く知られている有名な先生が多く、「先生の先生」といった雰囲気表現が表現としてぴったりです。特別講演の会場はどこも熱気に包まれ、学びを得ようとする多くの医師やメディカルスタッフが詰めかけます。壇上に立つ演者の先生の一語一句を聞き漏らさないよう皆が静かに耳を傾け、集中して前方のスライドを見つめる…それが特別講演です。

2025 年 12 月 29 日に第 62 回日本糖尿病学会近畿地方会が大阪中之島の大阪国際会議場で開催されました。この学会で、特別講演の 1 つであるランチョンセミナーの演者に主任部長が選ばれたんです。

遡ること 3 か月前、このお話を頂いた時には主任部長、今まで感じたことのない気持ちになりました。「ついにここま

で来たんか…。」びっくりとか嬉しいとか不安とか、そういう気持ちは不思議な事に一切ありませんでした。ただただ、遠い道のりを重い荷物を背負って仲間と一緒に一步一步進んできた自らの軌跡を、こんな形で評価して下さったことに深く感謝するばかりでした。

さあ、引き受けたからにはきっちりやり遂げて見せます、この大仕事。自らの経験を織り交ぜて、悔いのない特別講演になるよう一部の隙も無い（笑）スライドを準備します。40分の特別講演ともなると、読み原稿に頼ることはできません。どのスライドで何を言うか、どれくらい間を空けるか、何度も何度も練習して頭に叩き込みます。そして、いざ本番!!

2025年11月29日
第62回日本糖尿病学会近畿地方会
ランチョンセミナー

必要とする人に届けられる医師でありたい ～インスリンポンプによるAID治療～

市立ひらかた病院 糖尿病・内分泌内科 / 糖尿病センター

柴崎早枝子

450 人収容の大会場で壇上に立ちます。後ろには、見たことがないほどの巨大なスクリーンに、主任部長の用意したスライドが映し出されています。

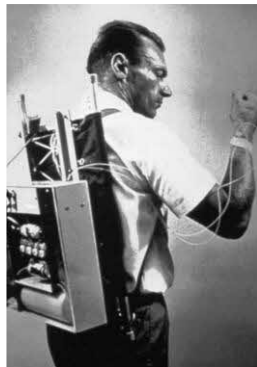
インスリンポンプ治療の歴史

1921年



フレデリック バンティングと
チャールズ ベスト先生
犬の膵臓からインスリン抽出

1960年代



アーノルド カディッシュ先生
初のインスリンポンプを開発

1970年代



シリンジタイプの注射器を装置に
取り付ける形のインスリンポンプ



1980年代



時代と共に
小型化

2000年代



Medtronic 社の
パラダイムポンプ

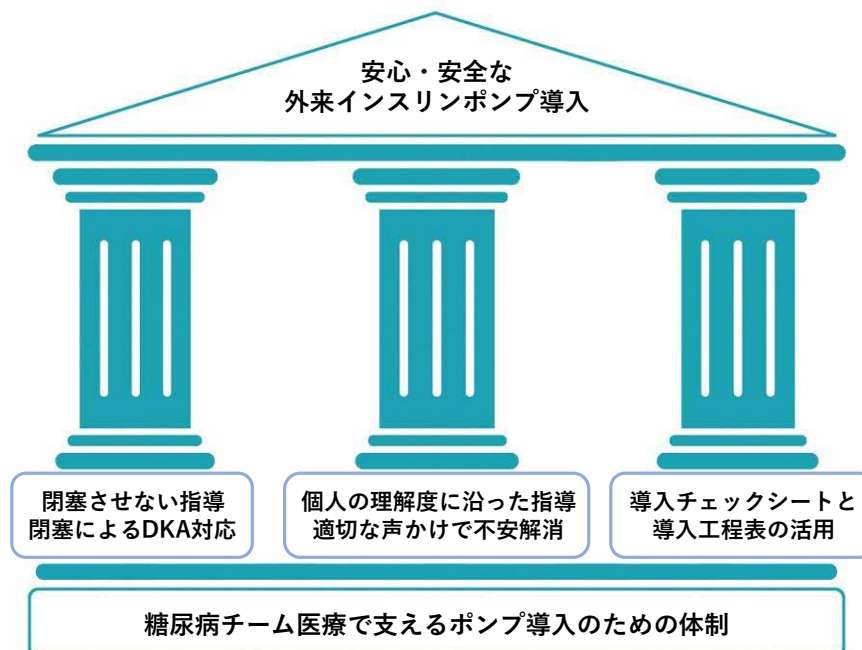
2022年以降



Medtronic 社のリアルタイム持続
血糖測定器対応インスリンポンプ
(Automated Insulin Delivery; AID)



体制は整った. さあ, インスリンポンプを導入しましょう !!



医療の進歩も主任部長の実力も遠く及ばなかった時代に、
ペン型インスリン製剤による 1 型糖尿病患者さんのインス
リン治療に限界を感じたこと。低血糖に苦しむ患者さんを前
にして無力感を覚えたこと。2023 年 12 月にやっとインスリ
ンポンプ AID (Automated Insulin Delivery) 治療が保険適
当となり、当科で外来導入のための体制作りに奔走したこと。
AID 治療で素晴らしく血糖コントロールが良くなった 1 型
糖尿病患者さんから感謝のお言葉を頂いたこと。これからも
必要とする人にインスリンポンプ AID 治療を届けられる医
師になりたいと心に誓ったことなどをお話しました。

この講演の演題は…

必要とする人に届けられる医師でありたい
～インスリンポンプによるAID治療～



皆さんへのメッセージ

必要とする人が、必要と思った時に、AID治療を届けられる医師に

みんなで一緒にしましょう。



誰もやったことの無い事を始めるのはとても勇気が要ります。前例のない事には誰でも尻込みしますし、周囲から否定的な意見が出てくるのも仕方がないのかも知れません。

「やらない理由は星の数ほどあれど、やる理由は一つしかない。それは、やらねばならないからだ。」私はそう信じます。

今、市立ひらかた病院には多くの1型糖尿病患者さんが、インスリンポンプ AID 治療を求めて遠くからお越しになります。3年前、主任部長がゼロから始めたインスリンポンプ治療は、糖尿病チーム医療を支えてくれるメディカルスタッフの協力を得て、当科が誇る専門的・先進的糖尿病治療へと成長を遂げました。主任部長、これからも「北河内地域により良い糖尿病治療を提供する」ために仲間と一緒に歩んでいきたいと思っています。もっと遠くまで行けると信じています。

“厳しくも恐ろしい”主任部長の20年来のお師匠が、こそっと見に来て下さって、講演が終わるや否や（主任部長に見つからないように…）足早に会場を後にされたのは、ここだけの内緒のお話です（笑）。